

平成 22 年度事業報告

(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

【概況】

当法人は、昭和 39 年 1 月の創設以来、日本の文学・哲学・教育・美術等の各分野に多大な影響を与え、東洋の精神文化の基幹をなしてきた禅及び禅文化を、総合的に研究し、その成果を普及して、広く世界の人類文化に貢献する事業を展開してきた。

本年度も禅文化の普及に努め以下の活動を行なった。

調査研究活動では、中国禅宗史・禅語録研究班をはじめ各研究班が従来通りの研究を継続、成果としての刊行にむけての作業を進めている。

資料収集・資料公開活動では、デジタルアーカイブスとして禅宗寺院が所蔵する文化財を電子データとして記録し保存する事業を本格化していった。

広報・普及活動では、研究成果の刊行をはじめ、様々なメディアを利用して禅文化の普及に努めた。

収益・共益事業では、宗教法人管理システム「擔雪」の販売や、受注のシステムとして、新規に天龍寺国際宗教哲学研究所の蔵書管理システムの構築と納品を行なった。また、承天閣美術館所蔵資料の整理も継続中である。

． 禅文化普及事業

1 調査・研究活動

1．中国禅宗史・禅語録研究班

唐代語録（『祖堂集』）研究会 〔班長 西口芳男〕

巻七の雪峰義存章、全 55 則のうち第 48 則までを読み進めた。そのうち第 1 則～第 28 則までの訳注を『禅文化研究所紀要』第 31 号（平成 23 年 3 月 31 日）に禅文化研究所唐代語録研究班篇「『祖堂集』巻七雪峰和尚章訳注（上）」と題して発表した。

研究会の開催日は、4/23、5/21、6/4、6/18、7/9、7/23、10/1、10/15、10/29、11/12、11/26、12/17、1/28、2/18、3/4。

班員 衣川賢次（花園大学教授）／中島志郎（花園大学教授）／川島常明（大通院住職）／廣田宗玄（花園大学非常勤講師、順心寺住職）／松岡由香子（花園大学非常勤講師）／千田宗琢（花園大学非常勤講師）／久保 讓（花園大学科目等履修習生）／徐 銀柱（花園大学国際禅学研究所研究員）
Eric Greene（京都大学人文科学研究所研究員）／Wits Casper（京都大学人文科学研究所研究員）
薛 耀祥（一指禅気功整体院）／雪敏（花園大学大学院博士課程）／古勝 亮（京都大学大学院）
中瀬祐太郎（花園大学国際禅学科学生）

『神会語録』研究会 〔班長 西口芳男〕

前年度より引き続いて『問答雜徴義（神会語録）』の定稿化を進め、第 23 段より第 36 段までを終えた。

研究会の開催日は、4/28、5/12、6/2、6/9、6/30、7/21、9/22、10/10、12/15、1/19、2/9、3/9。

班員 衣川賢次（花園大学教授）／中島志郎（花園大学教授）／北畠利信（花園大学非常勤講師）
松岡由香子（花園大学非常勤講師）／千田宗琢（花園大学非常勤講師）／久保 讓（花園大学科目等履修習生）

『景德伝灯録』研究会 〔班長 西口芳男〕

第五冊（巻13・14・15）については巻14の道吾円智章・雲巖曇晟章を除いて初校（西口・衣川・小川）を行っている。

巻16は前年に引き続いて、筠州九峰道虔禅師、廬山棲賢懷祐禅師、台州涌泉景欣禅師、潭州雲蓋山志元禅師、潭州谷山蔵禅師、福州覆船洪荐禅師、朗州徳山存徳慧空禅師、吉州崇恩禅師、石霜第三世輝禅師、鄂州芭蕉和尚、潭州肥田伏和尚、潭州鹿苑暉禅師、越州雲門山拯迷寺海晏禅師、湖南文殊和尚、潭州中雲蓋山和尚、鳳翔府石柱和尚、河中府棲巖山大通院存壽、南岳玄泰禅師の定稿化を進めた。

班員 衣川賢次（花園大学教授）／松岡由香子（花園大学非常勤講師）／千田宗琢（花園大学非常勤講師）／久保 讓（花園大学科目等履修習生）／Eric Greene（京都大学人文科学研究所研究員）
雪敏（花園大学大学院博士課程）／古勝 亮（京都大学大学院博士課程）／三浦國雄（大東文化大学教授）／土屋昌明（専修大学教授）／下定雅弘（岡山大学教授）／末木文美士（国際日本文化研究センター教授）／齊藤智寛（東北大学準教授）／石野幹昌（名古屋大学大学院博士課程）
石井修道（駒澤大学教授）／小川 隆（駒澤大学教授）／須山長治（駒澤大学非常勤講師）

研究会の開催日は、5/30、7/31、9/13、11/24、1/8

宋代禅語録勉強会 〔幹事 藤田琢司〕

引続き覚範慧洪『林間録』巻下を読み進めた。開催日は4/17・5/11・5/25・7/14・9/7・10/5・10/26・11/9・12/14・1/25・2/22・3/16であった。

参加者 研究所職員の他に、阿部理恵／五十部泰至／井本宗浩／佐々木陵西／佐野泰典／道前宗閑

2. 禅宗經典研究班

『楞伽經』研究会 〔班長 常盤義伸〕

常盤義伸著『楞伽宝經四卷本の研究』をテキストに、梵本と求那跋陀羅三蔵の漢訳本を対比しながら巻一を読み終え、その内容の把握、禅思想との関連などを考えた。また常盤義伸「楞伽經が仏説として引用する世親造唯識三十頌の二偈」の論文を『禅文化研究所』第31号（2011年3月）に発表した。

研究会の開催日は、4/26、5/24、6/28、7/26、9/27、10/25、11/22、12/20、1/24、2/28、3/28

班員 西口芳男（禅文化研究所）／小嶋 孝（花園大学科目等履修習生）／種村辰男（塾講師、FAS協会会員）

臨濟宗經典研究会 〔班長 西村恵学・講師 吹田良忠〕

- ・ 平成7年に難僧教育研究会の監修により刊行された『新修 臨濟宗勤行聖典 全三巻』の内容について検討し、一部の修正と再編成を行なった。その成果として『新修第2版 臨濟宗勤行聖典 全三巻』を刊行する準備を行なった。
- ・ 臨濟宗で一般的に読まれている經典の掌經の仕方や經の読み方、また磬の打ち方や回向文の読み方、仏壇の標準的な莊嚴方法などについて不定期に講師から指導を受けた。この標準的な方法をひろく一般に知らしめる方策についても検討し、CD媒体にして公刊するべきであるという結論に至ったため、その標準的な読み方を講師に録音していただいた。来年度に成果として刊行予定。

3. 哲学研究班 [幹事 森 哲郎]

今年度も継続して「華嚴五教章」の講読研究に取り組んだ。また、当班の仏典研究会である「大蔵会」の研究会は以下の如く開催された。

- ・6月12日(土) 京大会館103号室にて
- ・9月26日(日) 芝蘭会館地下会議室にて
- ・1月16日(日) 芝蘭会館地下会議室にて
- ・4月30日(土) 芝蘭会館地下会議室にて

なお、この「大蔵会」の仏典研究会以外にも、昨年度から、上田閑照先生の指導のもとに、西田哲学研究会では「善の研究」を、西谷研究会では「寒山詩」を、「大蔵会」と同じように3ヶ月に一度、読み始めている。

4. 日本禅宗史・禅語録研究班

明庵栄西研究会 [班長 藤田琢司]

没後800年を迎えんとする明庵栄西禅師の関係資料の所在を把握し、収集および内容調査を本格化させた。特に建仁寺両足院所蔵資料の調査において成果があった。天台宗・真言宗関係寺院および大学図書館等の調査も継続する。

『寂室語録』研究会 [班長 佐々木陵西]

永源寺開山寂室元光禅師の語録『永源寂室和尚語録』の訓読文及び注釈の草稿作成を終え、内容検討を継続中。

『元亨釈書』研究会 [班長 藤田琢司]

虎関師錬禅師による日本最古の仏教通史『元亨釈書』の訓読文および事項注釈が完成、正確を期するため更なる内容検討を継続中。また校正・索引の作成を開始した。

『延宝伝灯録』研究会 [班長 阿部理恵]

元元師蛮が撰述した禅僧伝記集である『延宝伝灯録』全41巻の訓読文の作成を終え、内容検討及び事項注釈の作成を開始。

『荊叢毒蘂』研究会 [班長 芳澤勝弘]

白隠禅師の語録『荊叢毒蘂』の訓読文および現代語訳、事項注釈について継続検討を行なった。研究成果は平成23年度中に刊行する。

5. マルチメディア研究班 [班長 西村恵学]

- ・多様なメディアを利用し、現代人に禅をわかりやすく伝える方策を研究。DVD 禅の庭シリーズとして「銀閣寺」の制作を6月より開始。
- ・禅語をわかりやすく解説するために、一般に親しみやすい風景写真を撮影・選定し、禅語と組み合わせた。その成果として『禅語に学ぶ 生き方・死に方』を刊行。

2 資料収集・資料公開活動

1. デジタルアーカイブス

「禅の至宝」(文化財目録整備事業)

禅宗寺院が所蔵する文化財を、保存性や再現性に優れた電子データで記録し利用するための「デジタルアーカイブ 禅の至宝」を、(株)アイデアマンユニオンと共同して制作し、今年度より運用開始。

臨濟宗黄檗宗寺院に協力を仰ぐため、臨黄合議所理事会に企画提案を行なった。

一般寺院什物データベース

一般禅宗寺院に調査に向いて、收藏される書画を撮影し、目録データを作成し、撮影したデジタル写真とともに管理できるように整備していく。上記「禅の至宝」への組み入れも考慮し、禅の文化財データベースを幅広く構築していく。

2. 資料の収集・整理・公開

資料室の整理・公開（利用）

今年度の購入図書は 18 冊。新たに構築した資料管理ソフトを使い未整理分文献資料 1000 点を入力した。蔵書については、研究会参加メンバーの他、大学研究者、市町村教育委員会等の閲覧要求に対応した。

WEB版所蔵墨跡展

当法人資料室で所蔵する墨跡の数々を、ホームページ上でバーチャル墨跡展として随時公開。

黒豆データベース公開事業

本年度は新たに「佩文詩韻」をホームページ上に公開した。

問い合わせに対する回答

研究所には、資料の出典や解説等、寺院・団体・個人を問わず様々な問い合わせが寄せられる。文書で行なった回答には以下のような質問が寄せられた。

諸回向清規所載の偈について（独立行政法人研究官）／中天景団の資料について（個人）／虚堂智愚に関して（個人）／天龍寺塔頭真乗院について（博物館学芸員）／春屋和尚墨跡の出典と意味（法人）／「龍生金鳳子」の出典（寺院）／天龍寺三合院扁額の印鑑（寺院）／誠拙周樗「羅漢講式」（寺院）／「黄檗首座泰禅」という僧侶について（個人）／殺生石伝説の史料について（研究者）掛軸「婦女訓」（個人）／東慶寺参拝簿「夏目金之助について」（個人）／ という書のいわれについて（個人）／「粥の十利」他質問（個人）／「家有壬癸神 日献四海水」「奇語宋無忌 火光速入地」の出典は？（個人）／達磨画賛の読み（個人）他 35 件、電話による回答多数。

3 広報・普及活動

1. 季刊『禅文化』の刊行

季刊『禅文化』は、禅の思想と生活及び文化・美術などに興味を持つ読者のための教養誌として刊行を続けている。今年度は 216 号～219 号を発行した。主な配布先は寺院、一般、花園大学後援会など。購読会員数 3,200 名

2. 研究成果の刊行

中国禅宗史・語録研究班の成果

『続・語録のことば - 「碧巖録」と宋代の禅』 小川 隆 (平成 22 年 7 月刊行)
初版 1500 部 宗門第一の書「碧巖録」と宋代禅の特質を考査した書。609 部売上

マルチメディア研究班の成果

『2011 年禅語カレンダー』 画賛・鈴木宗忠 (平成 22 年 9 月刊行)
初版 50000 部 禅のこころを生かしたミニ・カレンダー。46,531 部売上
『DVD 禅僧が語る「擔雪埋井」』 河野太通 (平成 22 年 5 月刊行)

- 初版 3000 部 禅宗を代表する高僧たちが生きる指針を語る好評のシリーズ。1,879 部売上
『禅語で学ぶ 生き方。死に方。』 西村恵信 (平成 22 年 7 月刊行)
- 初版 3000 部 生き方や死に方に関わる禅語を並び、それぞれ日常生活に即した解説を付した入門書。1,972 部売上
『七十を過ぎてわかったこと』 西村恵信 (平成 22 年 7 月刊行)
- 初版 1500 部 季刊『禅文化』連載の三余居窓話を一冊にまとめたもの。873 部売上
『How to do ZAZEN』 原田正道 (平成 22 年 10 月刊行)
- 初版 2000 部 外国人初心者向けの坐禅入門手引書。464 部売上

禅宗経典研究班の成果

- 『新修第二版 臨済宗勤行聖典 全三巻』 (平成 23 年 3 月刊行)
初版 500 部 日課諷經の次第に応じて経典と回向とを併集した経典。92 部売上

3. 「信心銘」講義 [講師 西村恵信]

『信心銘夜塘水』をテキストとして禅の基本思想を平易に教える一般社会人を対象にした所長による講義。毎週火曜日開催を原則とし今年度は 40 回開催した。平均 20 名参加。

4. ホームページの運営とコンテンツの充実

各コンテンツの充実。禅文化研究所ホームページでは、職員による「ブログ禅」の日次更新やメールマガジンの発行(不定期ながら月 1 回)を行なった。臨済禅を世界に発信する公式サイトである臨黄ネットでも情報更新を行なった。

5. 広報・普及

- ・3 年連続で東京国際ブックフェア(7/8~11・東京ビックサイト)に出展した。今回は妙心寺派東京禅センターの協力で一日数回の禅セミナーを開催。期間中 1500 名の来場者がブースを訪れ、海外のバイヤー数社と著作権交渉も行ない 2 社と契約した。
- ・DM を中心とした直販、本山・観光寺院・美術館等での委託販売や、書店・業者等の各ルートを通じて頒布を促進した。さらに各地で行なわれた住職研修会での頒布(業者委託含む)も行なった。このうち、美術展では出雲文化伝承館(4/21~6/6「出雲の白隠さん」)・福岡市博物館(9/11~10/31「栄西と中世博多展」)・九州国立博物館(2011 年 3/15~5/17「黄檗宗展」)等で頒布を行なった。現在、売店等で頒布を依頼している本山・寺院は以下の通り。
妙心寺(花園会館)/萬福寺/南禅寺/建長寺/方広寺/永源寺/天龍寺/相国寺(承天閣美術館)
建仁寺/佛通寺/龍安寺/金閣寺/高台寺(建仁)/酬恩庵(大徳)/龍潭寺(妙心)/東慶寺(円覚)
- ・新刊の発行に合わせ主要都市(首都圏・愛知・静岡・京阪神)の書店営業を行なった。
- ・内容を絞った新聞広告やアドワーズ広告等を利用してのネット上での販売を促進した。
- ・パブリシティ効果として、「2011 年カレンダー」が京都新聞に、「禅語に学ぶ 生き方。死に方。」が雑誌等に紹介された。
- ・西村恵信所長が NHK 教育テレビ「こころの時代」、NHK 総合テレビ「歴史秘話ヒストリア」に出演。また、小学館『サライ』、講談社『セオリー』にインタビュー記事掲載。
- ・Eメール発信によるメールマガジンを 6 回発信した。

- ・世界的に有名なベトナム出身の禅僧、ティク・ナット・ハンの2度目の来日（平成23年4月末～5月上旬）において、前半日程にあたる4月23日～26日の間の京都日程を妙心寺派とともに主催することになった。そこで、24日には花園大学無聖館ホール（450人収容）にての「京都講演会」を企画し、参加者募集を行なった（2月中旬に満席となり受付終了）。25日には妙心寺派管長・河野太通老師との対談を設定した。

．収益・共益等事業

1 ソフト開発・販売等事業

1．宗教法人管理システム「擔雪」の販売

「財務管理」「法務管理」「会費管理」「寄付金管理」の各システムを発売中。DM（ダイレクトメール）やネット上のアドワーズ広告等を利用し宗門を中心に仏教諸宗への販売促進を行なう。随時サポート。

2．オーダー型宗務所管理システムの構築

南禅寺派管理システムの機能追加

平成24年に行なわれる遠諱に向けて、システムの追加要望に対応。

建長寺派管理システムの機能追加と運用サポート

システムの追加要望の対応とその運用をサポート。

曹洞宗宗務所管理システムの運用サポート

宗務所移転に伴い構築済みシステムの運用をサポート。また、他の宗務所への営業を促進。

天龍寺派管理システムの構築と納品

平成23年3月に納品。また、天龍寺国際宗教哲学研究所の蔵書管理システムを平成22年6月に納品し、運用をサポート。

3．出版物頒布

他から委託を受けた禅に関する出版物をホームページやDMなどで案内し頒布した。

主な取扱い品：「日本の心 日暦」・「茶禅一如 日暦」（千真工芸）、「送喪儀」・「禅聖典」（連合各派布教師会）、「禅僧たちの室町時代」（吉川弘文館）、「英訳宗門葛藤集」・「英訳夢中問答」（天龍寺国際禅学研究所）、「広説仏教語大辞典」（東京書籍）等

2 共益事業

1．承天閣美術館（相国寺）所蔵資料の整理

承天閣美術館に配置されている図書資料類（追加整理分を含む）のデータ入力作業が終了し、所蔵場所および配置に関する再構成、開架に向けての作業を行った。次年度は、相国寺側と協議しながら、未整理の資料類の整理を行い、適切な保存と管理、および利用することを保障する体制整備を目指す。

2．寺院委託出版

訓注虎哉和尚語録	仙台・覚範寺	(平成22年9月刊行)
訓注大圓宝鑑国師語録並年譜	妙心寺塔頭聖澤院	(平成22年9月刊行)
大圓宝鑑国師墨蹟集	妙心寺塔頭聖澤院	(平成22年9月発行)
愚堂東寔遺墨選	妙心寺塔頭聖澤院	(平成22年9月発行)

3．臨黄合議所事務局

年間会議

平成22年4月16日(金)	理事会(妙心寺派宗務本所)
平成22年6月18日(金)	総会(大本山妙心寺)
平成22年9月16日(木)	理事会(妙心寺花園会館)
平成23年1月19日(水)	理事会(京都東急ホテル)
平成22年7月30日(金)	教学部長会(花園大学教堂)
平成22年11月12日(金)	教学部長会(花園大学教堂)
平成23年2月8日(火)	教学部長会(花園大学教堂)

臨黄寺院ネットワーク事業の推進。

第7回臨黄教化研究会の実施(2月28・3月1日:花園大学・花園会館)。

臨黄会報発行(33号・34号)。

臨黄互助会の推進。

4．日中臨黄友好交流協会

年1回の会議を開催。

第8回日中禅僧交換交流(平成22年9月26日~10月5日:国内2僧堂において)。

5．後援会事業

講演会

第9回 西村恵信所長と行く「禅と文化」の旅

5/18(火)実施。揚屋(あげや)建築の唯一の遺構である島原角屋の建造物と美術工芸品を所蔵している島原角屋もてなしの文化館を見学。講演を江戸時代に開創された黄檗宗の開臥庵で行った後、黄檗普茶料理を賞味した。午後からは浄土宗総本山知恩院を訪れ、立体観経曼陀羅の特別参拝と御影堂や大方丈等を拝観、三門にも登った。会員・非会員合わせて33名が参加した。

現在の会員数、法人・個人会員42名。